

国内外の取組みから



国際会議

Velo-City2025 からの話題



Velo-City 2025 開催概要

Velo-City(主催:ECF(欧州サイクリスト連盟))とは

自転車やアクティブモビリティに関する知識の交換のために、毎年異なる都市で開催される世界会議

自転車活用

×

交通・まちづくり・観光・安全・健康・教育・産業・市民活動 ...etc
様々な社会課題を「自転車」を切り口に議論し、情報共有、交流

1980年から開催されており、**2027年に日本(愛媛県松山市)で開催**



- 日程 令和7年6月10日(火)～6月13日(金)
- 場所 ポーランド・グダニスク市「Amber Expo」
- 主催 ECF(欧州サイクリスト連盟)、グダニスク市
- 内容

○開催テーマ「Energizing Solidarity」

<サブテーマ>

- ・The Social Power of Cycling / ・Shaping the Urban Transformation Together
- ・Political Solidarity for a Just Transition / ・Cycling for Joy and Health
- ・Cycling to Boost the Economy and Save Energy

○約90の全体会議・セッション、約70のブース出展、バイクパレード等

○約60か国、1,400人超参加





個別セッション

シェアサイクル・シェアモビリティ

- シェアサイクルにおいては事業者からの発表が中心であるが、特に都市の移動手段としての役割やその市民へのリアクションなどに関する報告がみられた。

■3.6 シェアモビリティの次の時代:シェアサイクルが都市をどう形作るか

■Freewheel Stage YouBike

Evolution of our fleet



Efit/Fit
2018

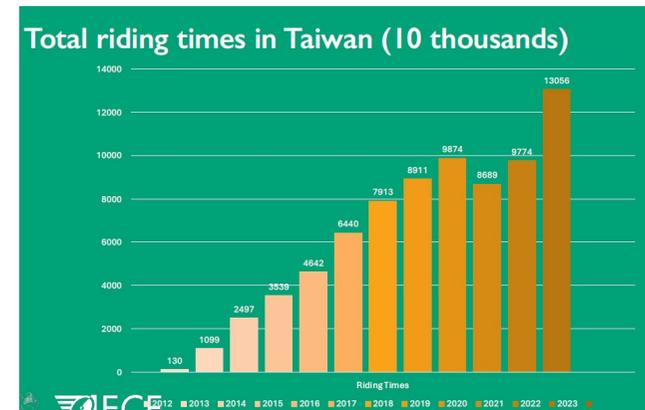
PBSC's **first 24" ebike**, currently sold and deployed in cities worldwide.

Lyft's New Ebike
2025

A smart ebike with dynamic pedal assist, **flexible parking capability**, **seamless charging**, and real-time connectivity for smooth, safe rides.

Lyft's New Pedal Bike
2025

Easy to ride and built for city streets, this pedal bike features **flexible parking capability** and a **dynamic rider interface**.



個別セッション

通行空間・インフラ・交通制御

- 欧州や南米を中心に、自転車インフラ整備を通じて気候変動対策や都市の住みやすさ向上に向けた事例を紹介。**街路設計や速度制限、サイクルハイウェイ**導入により、自転車利用の推進や安全性が改善されている。

- 2.1 都市変革:人々のための街路とより緑豊かな未来を設計する
- 9.6 都市空間の再設計:永続的な変化をもたらす自転車インフラ
- 7.1 自転車による都市変革:成功事例

Physical improvements in phases

Political pressure: Build where you can, when you can!



2017 2018 2020

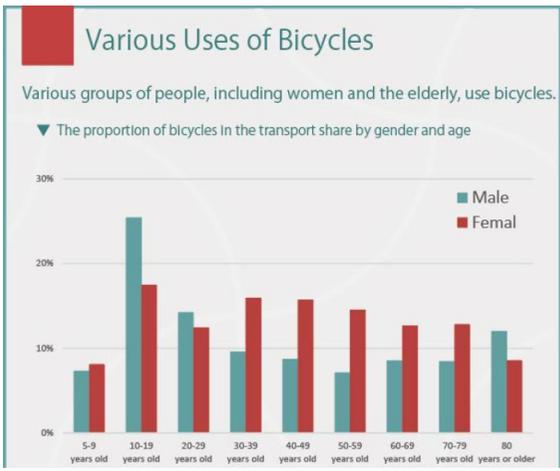
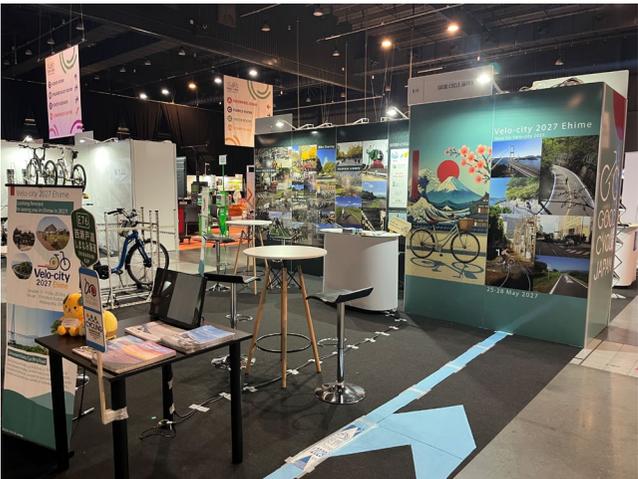
1. Car parking, no bicycle infrastructure
2. No car parking, one way bicycle lane
3. Elevated bicycle lanes

Then & Now



日本ブース

- 2023年・2024年に続き、民間団体・企業、愛媛県などとともに合同で日本ブースを設置。
- テーマは「**日本に来てみませんか？**」とし、日本の自転車全体を魅せる展示としつつ、愛媛への来訪を促す内容に。
- 参加者からは愛媛への期待のほか、日本の駐輪や様々な技術への興味、日本の自転車利用率の高さ、自転車教育への関心が高かった。



GOOD CYCLE JAPAN

Velo-city 2027 Ehime
Host for Velo-city 2027
25-28 May 2027

Labels in collage: Mama-chari & E-bike, Bike Sharing, Japanese scenery, Bike Parking, Bicycle use by a diverse range of age groups.

【海外事例】

シェアリングモビリティ

とモビリティ・ハブ etc

公共交通連携・モビリティハブ@グダニスク

- 郊外電車(SKM・PKP)のGdańsk Brętowo駅では、駅舎に自転車店があり、サイクル拠点機能とともに、駐輪場やシェアサイクルポートが整備されており、モビリティハブ機能も確保されている。
- 郊外店舗のショッピングセンターの駐輪場には空気入れや工具などをまとめた「リペアステーション」が設置されている。



▲ショッピングセンター駐輪場のリペアステーション



▲郊外駅のサイクル拠点としても機能するモビリティハブ

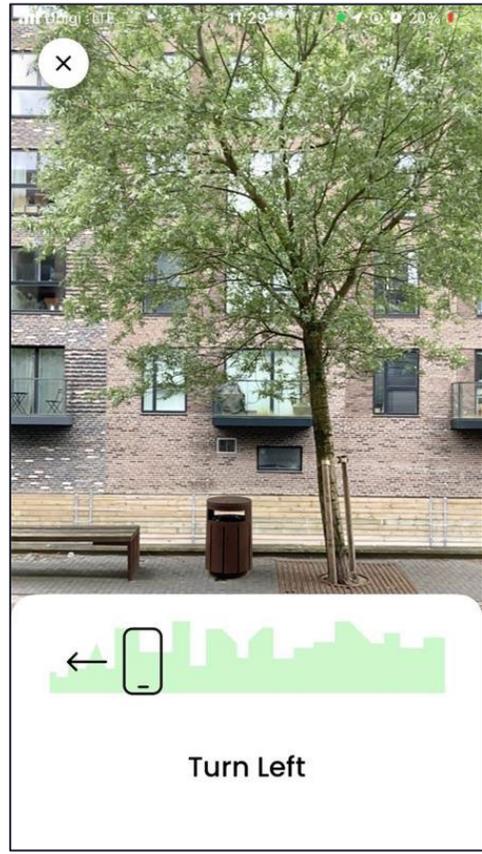


シェアサイクル@コペンハーゲン

- 「LIME」「Donkey Republic」等の6社により、市内全域でシェアサイクルを運用。
- コペンハーゲン市によるシェアサイクルの許可台数の合計は9520台。
- LIMEはアプリ上で指定された空間(P)に車両を駐輪することで返却処理が可能になる。
- 一方、車両の正確な位置の把握に課題があったことから、Googleの拡張現実技術を導入。スマートフォンのカメラで周辺の景色を撮影することで、正確な位置の特定を確認している。

事業者	車両数
Bolt	1300
Donkey Republic	2680
Lime	2500
Ridemovi	800
Dott	1700
Kinto	540
計	9520

▲市によるシェアサイクルの許可台数



▲LIMEのアプリ画面(左:位置情報の確認画面 右:ポートマップ)



▲ゾーン区間に設置されたポート

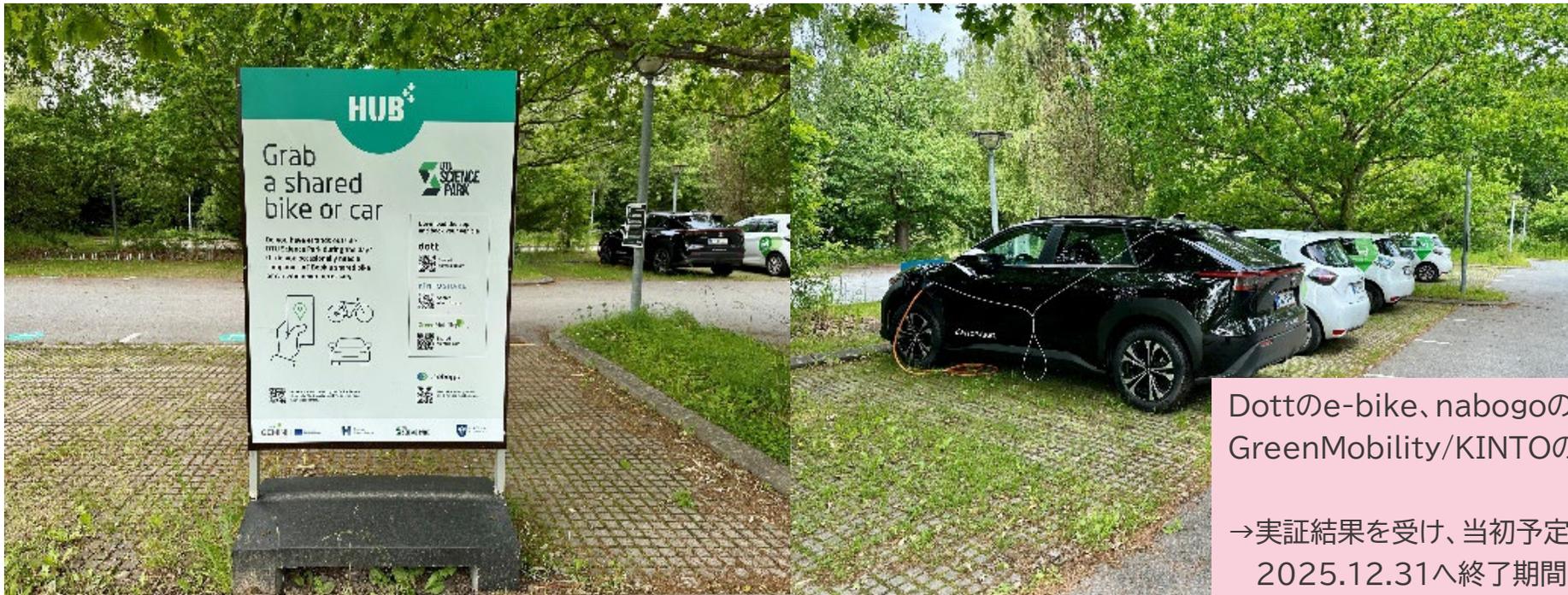


▲モビリティハブに設置されたポート



モビリティ・ハブ@コペンハーゲン

- GEMINIプロジェクト:EUのHorizon Europeプログラムから助成を受けたモビリティ実証プロジェクト。
期間:2023年6月~2026年12月、予算:約1,200万ユーロ。
- 気候中立性の達成加速、新しい共有モビリティサービス(NMS)の開発・テスト、持続可能な交通ソリューションの実証、自家用車依存の削減を目的にしている。
- 都市電気モビリティ・イニシアチブ(UEMI)が主導する43のパートナーのコンソーシアムが参加し、欧州の8都市にあるモビリティリビングラボ(MLL)で共同設計、展開、実証が行われている。
- ルーダースダール(Rudersdal)においては、デンマーク首都地域(Region Hovedstaden)をプロジェクトリーダーに、基礎自治体のルーダースダール、デンマーク工科大学(DTU)、DTU Science Parkが参加。2024年8月から、DTU Science Park、Vedbæk Station(ヴェズベック駅)、Nærum Station(ネールム駅)など、複数個所にハブが設置されている。



Dottのe-bike、nabogoの相乗り、
GreenMobility/KINTOの (EV)カーシェア
が利用可能
→実証結果を受け、当初予定の2025.7.31から
2025.12.31へ終了期間が延長された

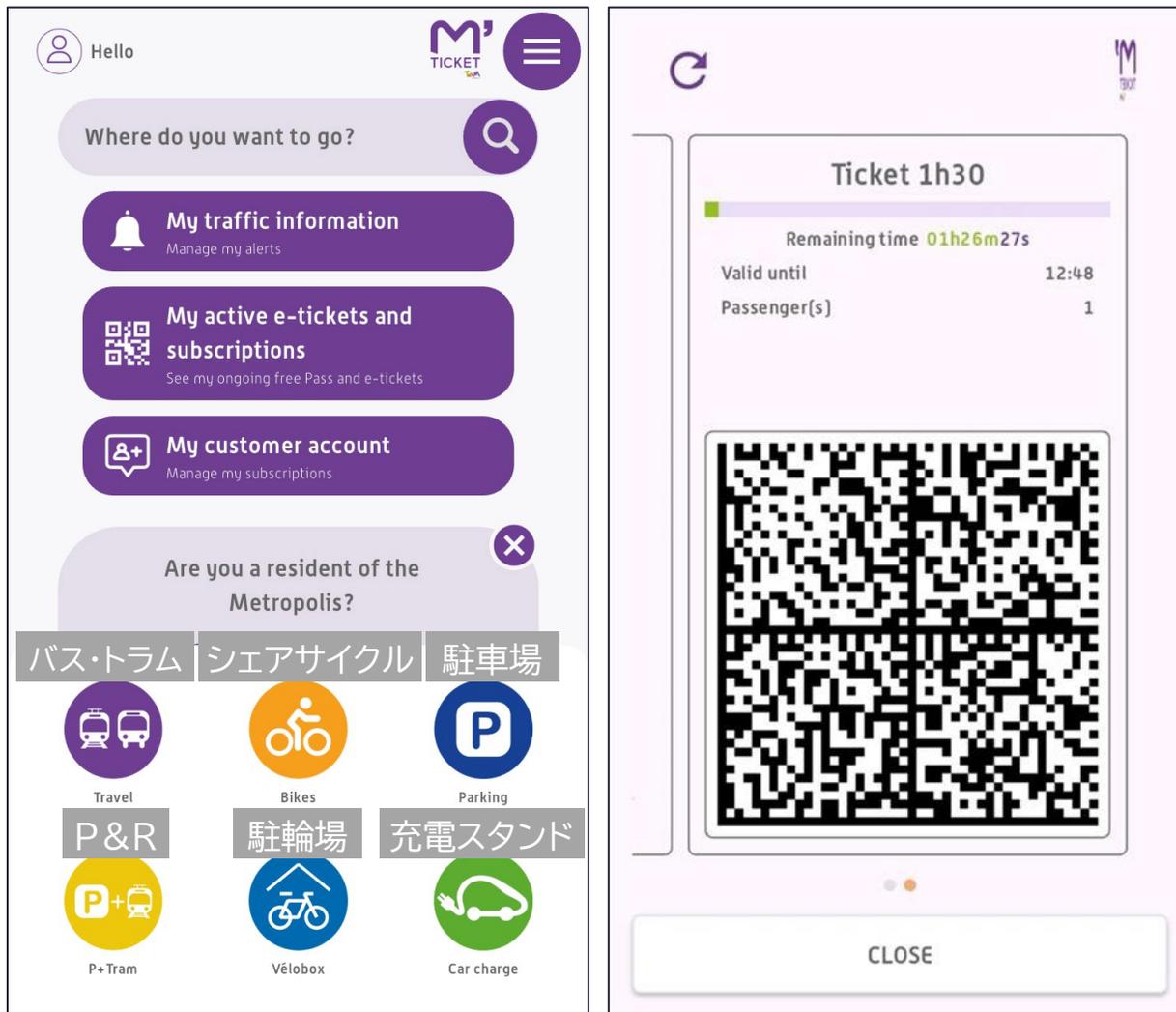
▲DTU Science Parkのモビリティ・ハブ





モビリティ・ハブ@モンペリエ

- MaaSアプリ「M' Ticket」で、バス・トラムやシェアサイクル、駐車場、駐輪場、電気自動車の充電スタンドのチケットを購入可能
- トラムの終点には、バス・シェアサイクル・駐輪場・デマンドタクシーによるモビリティハブが整備され、ラストワンマイルの移動を補完



▲MaaSアプリ画面(左:トップ画面 右:バス・トラムの1時間半乗り放題チケット)



▲トラム終点のモビリティハブ



